

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2020

令和2年
2月1日発行

No.52

題字 大熊中学校3年 いしだ 石田 みなみ 美波さん (平成28年度当時)



震災時小学5年生が成人を迎えました (開催地：いわき市 52名出席)

12月
定例会

新しい議会体制決まる	2
住民福祉施設条例制定	4
ズバリ町政を問う 3人が一般質問	8
交流を深め実のあるサロンに	12

議長 吉岡 健太郎 副議長 廣嶋 公治

令和元年 議会新体制決まる



副議長 廣嶋 公治



議長 吉岡 健太郎

昨年11月20日、臨時議会が招集され議長に吉岡健太郎議員、副議長に廣嶋公治議員を選出しました。また各委員会の構成も決まりました。

町民目線で課題に向きあい 信頼される議会を目指します

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

年頭にあたり大熊町議会を代表致しまして謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より町議会への深いご理解と議会活動に対する温かいご支援やご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私は昨年11月の臨時議会におきまして議員各位のご推挙をいただき、大熊町議会議長に就任致しました。

微力ではございますが責任の重さを自覚し町民の皆様と議員各位のご協力を賜り、大熊町の復興再生に全力を

傾注してまいります。

今年3月には常磐線が全線開通し、大野駅周辺の一部で避難指示が解除されます。

大野駅から大熊インターへの導線、また立入規制の緩和が予定される下野上地区を通り大川原までの導線が確立されます。

これにより若千ではあります交流人口の増加も期待出来ます。

今後、議会が一丸となり絆事業の継続や、県内外に避難している町民の皆様への支援策等を提言してまいります。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を衷心よりご祈念申し上げ、議会を代表しての挨拶とさせていただきます。

議会運営委員会

委員長 仲野 剛
副委員長 阿部 光國

議会を円滑かつ効率的に運営するために設置されています。

また議長の諮問機関であり、条例制定や請願書の取扱いを行います。



廣嶋 公治 木幡 ますみ 佐藤 照彦
阿部 光國 仲野 剛

総務文教常任委員会

委員長 阿部 光國
副委員長 武内 正則

大熊町の復興と町の宝である子どもたちの未来を守るのが総務文教常任委員会の役割です。適正な運営をしているか、厳しくチェックします。

所管

総務課 税務課 企画調整課 用地対策室
出納室 議会事務局 教育総務課
選挙管理委員会 監査委員
固定資産評価審査委員会



西山 英壽 千葉 幸生 渡辺 誠
武内 正則 阿部 光國

産業厚生常任委員会

委員長 木幡 ますみ
副委員長 島原 健二郎

新しい町づくりと生活支援策などを町民の目線で審査し提言していくのが産業厚生常任委員会の役割です。

所管

住民課 保健福祉課 環境対策課
生活支援課 復興事業課 産業建設課
いわき出張所 会津若松出張所
中通り連絡事務所 農業委員会
坂下ダム管理事務所



佐藤 照彦 石井 和弘 仲野 剛
廣嶋 公治 島原 健二郎 木幡 ますみ

広報公聴常任委員会

委員長 佐藤 照彦
副委員長 渡辺 誠

読みやすく分かりやすい議会だよりを目指します。また各地で活動している町民の方々を紹介します。



島原 健二郎 西山 英壽 石井 和弘 阿部 光國
廣嶋 公治 佐藤 照彦 渡辺 誠

令和2年4月開設

住民福祉施設条例制定

住民福祉センター設置条例

大川原復興拠点内に令和2年4月住民福祉センターが開設されます。開設にあたり設置条例が制定されました。

地域住民の福祉の増進および交流を図るための条例です。

認知症高齢者グループホーム設置条例

認知症のある高齢者が家庭的な環境の下で、自らの役割を持ちながら日常生活が送れるようグループホームを設置する条例が制定されました。施設には2つのユニットがあり、1ユニットに9名、総数18名が入所できます。グループホームの名称は、町民からの公募により「おおくま もみの木苑」と決まりました。

条例制定 一部改正 補正予算などを審議

12月定例会のあらまし

令和元年12月定例会が12月11日から13日までの3日間の日程で開かれました。

第1日目に町長から条例制定および一部改正、土地の取得、財産処分、一般会計補正予算、人事案件など18議案が提案されました。

第2日目は3人が一般質問で登壇、避難地域ごとの連絡網を作るべき、水害に遭った町民にお見舞いをすべき、東側エリアに企業誘致をする提言がされました。

第3日目最終日に本会議を開き、初日に提案された18議案を審議し全議案とも全会一致で可決しました。

なお今定例会の傍聴者は延べ16人でした。



町民が安心して生活できる福祉ゾーン

中間貯蔵施設予定地内 公有財産処分決まる

財産処分

3億882万円

中間貯蔵施設予定地内にある野馬形地区集会施設、デイサービスセンター（サンライトおおくまの一部）を財産処分し基金に積立しています。



利用者の憩いの場だったデイサービスセンター

用地取得

1億159万円

大川原地区の頭森公園に隣接する山林、墓地、沿地1694平方メートルを取得し、里山として公園周辺も含め一体的に整備していきます。

大野駅に防犯カメラ設置 利用者の安全安心を守る

防犯カメラ設置

217万円

大野駅利用者の安全安心と犯罪の抑止を目的として防犯カメラを4台設置します。



開業に向けて整備が進む大野駅

放射線情報システム改修業務委託
660万円

役場と駅に設置するモニタリングポストの放射線情報を町ホームページ等で公開するため、既存の放射線モニタリングシステムを改修するものです。

大川原拠点内

診療所整備始まる

運営方法などを検討

診療所整備

705万円



生活にかかせない医療施設を（イメージ）

県立大野病院が再開するまでの間、町内で生活する上で必要な診療所を大川原復興拠点内に整備します。

基本計画を見直し、設計業務等を委託する業者を選定するための事業費です。併せて運営方法なども検討します。

会津若松出張所改修費

2200万円



利便性を考えインターチェンジ近くへ

現在の会津若松出張所の移転に伴い、会津若松インターチェンジ近くのアピオスペース内の建物を改修するための費用です。

駐車場用地購入費

351万円

大川原復興拠点内にある本庁舎の東側の土地を取得し、駐車場として整備します。

戸別受信機購入費

527万円

防災行政無線個別受信機を100台購入し、災害情報等をお知らせするため大川原、中屋敷地区に居住されている世帯の希望者に配布します。

固定資産評価員

末永清一氏を選任

全会一致で選任に同意しました。

（氏名）末永 清一 氏

（住所）大熊町大字熊

（任期）令和元年12月17日から

下野上地区の都市計画 区域認定へ動き出す

令和元年12月定例会で補正予算、条例改正の審査を行いました。
その中から主な質疑内容を報告します。

下野上地区都市 計画区域

問 区域内の土地利用への同意進捗は。

答 地権者147名の内おおむねは訪問し同意を頂いた。

問 訪問できない地権者へは電話等で訪問を調整している。

問 区域内の「り災証明」の発行手続きは進んでいるのか。

答 訪問時に証明書の内容、手順を説明し、手続きを進めている。

問 訪問時に地権者への事業内容を説明し要望を聞くべきでは。

答 要望は聞いている。今後の事業へ反映していきたい。

タブレット終了

問 タブレットは回収するのか。

答 基本的には回収しない。終了時にはタブレットの初期化が必要となる。

問 タブレットは再利用できるが個人での再契約が必要となる。終了後の処理に困った人は企画調整課へ連絡願いたい。

問 タブレット終了に代わる計画は。

答 情報弱者がないよう当面は総務課のお知らせメールで対応し、町民の意見を聞きながら検討していきたい。

会津若松出張所 会議室

問 会議室は町民も利用できるのか。

答 事務所で会議等がない時は利用できる。

固定資産税

問 避難指示が解除された区域での固定資産税課税再開を詳しく説明すべきでは。

答 広報等で周知し、個別での電話相談を受け付ける。

認知症グループ ホーム

問 指定管理者におおくま福寿会が指定されたが現在の人員で運営できるのか。

答 職員を募集したところ32名の応募があり4名が2次審査に残った。開所時には9名の

職員で運営していきたい。

消防団

問 消防団が夜警を実施できない理由は。

答 団員が広範囲に避難しているため長距離運転などのリスクを考慮して今年度は実施しないことになった。

問 次年度以降も実施しないのか。

答 消防団と実施を前提に協議していく。

いちご工場

問 いちご工場への支援予算が計上されているが内容は。

答 太陽光発電事業で事業者より毎年500万円の地域支援金があり、今回はいちご工場にフォークリフト3台の購入を支援する。

問 今後町内で農業が再開され集団化、法人化されたら支援金は使えるのか。

答 活用することは可能。事業者より20年間支援金が入る。

町営診療所

問 町営診療所を立ち上げ後、県立大野病院が再開した場合、診療所の扱いは。

答 再開した場合、二次医療は県立大野病院一次医療は診療所としていたい。

有害鳥獣駆除

問 今年度のイノシシ等の有害鳥獣捕獲数は。

答 イノシシについては帰還困難区域で596頭、避難指示解除区域で111頭、アライグマ等は100頭捕獲した。



未来に希望を込めてぺったんぺったん（里がえりもちつき大会）

3人が一般質問

復興への課題をとらえて

ズバリ町政を問う

1. 千葉 幸生 議員 9
上水道は新ルートで敷設するべき
避難地域ごとの連絡網を作るべき
2. 木幡 ますみ 議員 10
水害に遭った町民にお見舞いをすべき
いわき出張所を別の場所に
3. 佐藤 照彦 議員 11
大川原地区東側エリアに企業誘致を

千葉 幸生 議員



問 新ルートで敷設すべき

上水道

答 計画を早急に作成する

千葉 町内の上水道は耐震性や老朽化も懸念される。

大野駅前周辺は老朽化した配管が細かく敷設されている。

既設上水道配管は閉止または撤去し、復興計画や今後の町のあり方を十分に熟慮した新配管ルートにする必要がある。

町は具体的な計画図を作成し、新ルートの策定と施工計画の速やかな提出を双葉地方水道企業団に要請すべきである。

町長の所見を問う。

町長 大野駅前周辺および下野上地区内は、令和4年春の避難指示解除を目指していく計画である。

ご指摘の通り上水道の管径やルートの変更は必須である。老朽化した配管の入

れ替えも含めてしっかりとした計画を早急に行成し、計画的敷設工事を要請していく。

その際、官民連携手法やアウトソーシングの必要性・有効性を十分に理解し特定復興再生拠点整備のスピードアップを図っていく。

台風19号被害対応

問 避難地域ごとの連絡網を作るべき

答 個人情報であり慎重に検討していく

千葉 台風19号やその後の大雨は町外に住む多くの大熊町民にも被害をもたらしたが、現体制の執行部は物理的

にも時間的にも町民の被災状況や安否の確認すら困難であった。

町外避難者に対し緊急時にこそしっかりと寄り添う対応が必要と考える。

そこで、町民個々の個人情報であることから十分な配慮が必要となるが、町民にとって不安な気持ちを少しでも和らげる意味でも、緊急時に限って郵便番号または小字ごとの連絡網を作つてはどうか。

発信者は大熊町民でその地域の現状をよく把握されている信頼のおける方にしてはどうか。

この提案の賛否を町長に問う。

町長 災害救助法では住民票の有無に関わらず発生場所の自治体が対応することになっており、居住自治体において、居住自治体においてお願いするしかない。

連絡網作成については、大変有効と理解しているが、避難地域ごとに作ることは個人情報であることから慎重に検討する必要がある。今回の台風とその後の大熊被害の課題や対応の方向性を検証する中で検討していく。



緊急時にしっかり寄り添う対応を



木幡ますみ 議員

水害支援

問 町民にお見舞いをすべき

答 支援策を検討する

木幡 10月日本に上陸

した台風19号は関東地方や甲信越地方、東北地方などで記録的な大雨となり甚大な被害をもたらした。

福島県内でも同じく避難所である体育館や仮設住宅で過ごしている方が大勢いる。

また大熊町民においても床上床下浸水の被害を被り、命の危険さえ感じた方もいた。

仮設住宅に身を寄せ自宅の修繕をしたり、復興公営住宅に入居し

た方もいる。

今回の台風による水害により被害を受けた自治体に対し町としてお見舞いをすると聞いたが町民で被害を被った方に対してお見舞いをしないのか。

今も心細い思いをしていると聞いた。ぜひお見舞いをすべきと思うが町長の考えを問う。

町長 お見舞いについては、町民の大多数が避難するいわき市や郡山市では住民登録の有無に関わらず、被害を受けられた方々に対しては居住要件で見舞金を出すことになっている。対応が異なる自治体もあると思うので、その場合は町での対応を考え、水害に遭った町民のために支援策を検討したい。

問 いわき出張所を別の場所に

答 利便性を考慮して適地と判断した



災害対策を万全に (いわき出張所移転予定地)

木幡 移転が決定したいわき出張所は今回の台風による水害を受けた地域にある。台風による水害はもう二度と来ないとは言えずこの場所で大丈夫なのか。この際、移転先を別の場所にすべきではないか。変更が難しいならば災害時の対応はどうするつもりか。町長の考えを問う。

町長 いわき出張所の件については、いわき市内での利便性や駐車場、建物の広さなどを考慮して適地と判断した。万が一同じような災害になっても水没から免れるように、室外機や事務機器など高さを確保して対応して行きたい。

佐藤 照彦 議員



復興拠点
大川原地区

問 東側エリアに企業誘致を

答 農業エリアとして検討

一方で令和4年4月の開校に向け幼保・小中一貫校の整備計画が予定されているが、より多くの住民の帰還につなげるためにも、この東側エリアに企業誘致を図り、ここで従事する方々の住宅等を整

備することでも人口増加につなげると考える。町の考えはどうか見解を伺う。

佐藤 今年4月、中屋敷・大川原地区の避難指示が解除され、新庁舎での業務開始や公営住宅への入居、福祉施設の建設など復興拠点内の整備が進んでいる。このような中、町の計画では復興拠点として大川原地区内の常磐自動車道を中心に、一団地として東西地区約38ヶ所を整備していくと認識している。

町長 大川原地区内の常磐自動車の東西を中心に、復興拠点として約38ヶ所を整備していく予定であったが、一部交渉がまとまらず、面

的かつ早急な整備ができないことから、西側18ヶ所を国の認定を受け役場や災害復興公営住宅等を整備している。また現在は、令和2年春のJR常磐線全線開通、令和4年春の特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除に向け大野駅周辺及び下野上地区の整備を大川原と同様、国の一団地事業を活用して整備を進める方針である。



有効活用が望まれる東側エリア

一団地事業が、原子力災害からの復興の拠点となる市街地を緊急に整備する事業であることから、同事業を活用し下野上地区を整備している大熊町が、大川原地区復興拠点の東

側20ヶ所について再度この事業の認定を受けることはできないと考えている。帰還する住民が徐々にではあるが、増えている状況である。現在、ダムの水を利用し、水稻の実証栽培を実施している。施設園芸など実施可能なこの東側約20ヶ所については、町が買収するのではなく、まちづくり公社と協力しながら営農再開したい方、そして新規就農したい方、また農業法人や農業関連企業などが参入できる農業のエリアとして検討していく。

交流を深め実のあるサロンに ふれあいサロン「つながっぺ・おおくま in こおりやま」

私たちのサロンは2011年10月から、郡山市開成の縹りあい処「空間」を会場に活動を開始しました。被災してから2年間は、毎週土曜日4回開催していました。

大熊町の人たちが集まることで安心感があり、また多くの情報を得ることができました。3年目からは第1、3土曜日の月2回開催しております。

活動はお楽しみ会だけではなく、常に向上心を持ち積極的に情報を得る内容を心がけています。2012年には町に「中通り地域の行政機能の早期拡充に関する要望書」を出しました。最近ではジャーナリストとして活躍されている元NHKアナウンサー堀潤さんをお招きして講話に耳を傾けました。

サロンでのお昼は参加者が手作りのお料理などを持ち寄り、ランチを楽しみながら会話を弾ませています。

これからも交流を深めながら実のあるサロンを続けていきたいと思っております。

代表 太田文代 ☎080-1808-8333



会話が弾むランチタイム



懇親を深めた絆研修（西伊豆）



ストレッチで健康づくり

編集後記

昨年5月、大川原の新庁舎で業務を開始しました。

これまで、会津若松市の皆さんには大変お世話になりました。

各地のサークル活動や懇談会に出席し、参加者を励ますつもりが逆に元気をいただいたこともありました。

議会だよりも52回目の発行となりました。新メンバーで初めての編集となりました。今後も読みやすくわかりやすいを心がけていきます。

友人や知人との情報共有に議会だよりを役立てていただければと思います。

佐藤 照彦

広報公聴常任委員会

委員長	佐藤 照彦
副委員長	渡辺 誠
委員	石井 和弘
委員	島原 健二
委員	西山 英壽
委員	阿部 光國
委員	廣嶋 公治
発行責任者	吉岡 健太郎